

施策1－4

▶ 子ども・若者の健全育成と自立支援

思春期以降の子ども・若者が自身の未来を考え、最善の判断・選択が行えるよう支援や教育の機会を提供します。

◆施策の成果指標◆

指標	現状	令和6年度
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童（小学校6年生）	98.1% (H30年度調査結果)	⇒
現状数値の出典：全国学力・学習状況調査		
将来の夢やつきたい仕事があると回答した生徒の割合（中学3年生）	65.7% (H30年度調査結果)	⇒
現状数値の出典：新潟市生活・学習意識調査		

◆施策推進の背景◆

思春期は多感な時期であり、自分のことや将来のことなどで気持ちが不安定になりがちな時期でもあります。そのような児童・生徒の変化に気づいてあげられるよう周囲の大人が注意深く見守りことも重要ですが、思春期の心身の状況等について学習する機会を設け、不安なことがあった場合には気軽に相談にいける環境を整えることも重要です。

また、そのような心の不安定などから非行やひきこもりの状態になった場合においても、自立した生活を送れるように社会全体で見守り、サポートする環境を整えることが求められます。

◆具体的な取り組み◆

取組1) 思春期の保健対策の充実

思春期における不安や悩みを受け止め、必要な支援や情報を提供できるよう相談体制を整えます。また、思春期・妊娠・出産に関する適切な知識を持ち、自分の望む人生を設計できるため思春期における健康教育に取り組みます。

〔主な事業〕

- ◇思春期青年期相談
- ◇思春期健康教育

取組2) いじめの未然防止、不登校の子どもへの支援

いじめの未然防止では、子ども同士の温かい人間関係を築く授業、児童会生徒会活動、行事などの充実を通して、いじめが起こらない風土づくりを推進します。また、いじめの未然防止・早期解決のために、市民が協働することの大切さについて啓発します。

不登校については、子どもの気になる変化を見逃さない予防的な指導を推進するために「いじめ・不登校の初期対応ガイドブック（不登校編）」の活用促進を図ります。

また、課題解決的な指導が必要な対応では、「児童生徒理解教育支援シート」を活用し、各区教育支援センターや教育相談センターを中核とする各区教育相談室との連携により、組織的な対応を進めます。

〔主な事業〕

- ◇いじめ防止市民フォーラムの実施
- ◇新潟市いじめ防止市民連絡協議会の開催
- ◇教職員研修の実施
- ◇欠席連絡の丁寧な聞き取りと欠席3日目の家庭訪問の実施
- ◇「児童生徒理解教育支援シート」を活用したチーム支援
- ◇不登校担当者研修会の実施
- ◇不登校の実態把握に係る学校訪問の実施

取組3) 子ども・若者の健全育成と自立の支援

ひきこもりなどの困難をかかえる子ども・若者の社会的自立を、若者支援センター「オール」を中心とした関係機関で支援します。また、青少年の健全育成や非行の未然防止に向けた取組を推進します。

〔主な事業〕

- ◇若者支援センター「オール」における相談窓口、居場所の設置
- ◇にいがた若者自立応援ネット
- ◇街頭育成活動
- ◇非行防止キャンペーン